

令和8年度 天津小学校校内研究

1. 学校教育目標

学ぶことを楽しみ、自他の良さを大切にし、ともに成長する天津っ子の育成

めざす子ども像

- 日頃の行いを大切にする子
- 思いや考えを表現する子
- 人を思いやり大切にする子
- 目標に向かって行動し、粘り強く挑戦し続ける子

2. 研究主題

「主体的に考え、学び合える授業の創造」
～つきたい力を明確化し、単元を見通した学びの充実～

3. 主題設定の理由

(1) 子どもの実態から

本校の児童は、明るく素直で何事にも一生懸命に取り組もうとする子どもが多い。また、友だちのよいところを認めて紹介し合ったり、上級生が下級生に優しく関わったりすることができる。また、地域の方から見守られているという安心感からも、学校全体に温かさを感じることができる。

しかしその反面、子ども一人ひとりの学力差が大きく、自分の考えを説明する力や、やりとりしながら、自己の考えを深めて集団で解決していく力は十分ではない。学習の基礎基本を確実に身につけさせるために、主体的に課題をとらえ、解決に向けてお互いに考えを出し合って、ともに学び合ったり、よりよいものを創り上げたりすることが重要である。そこで、教師側が単元を見通してどのような力をつきたいのか、1時間ごとのつきたい力に応じた適切な学習計画や活動を組み立てる逆向き設計の授業づくりをしていく。そして、単元のめあてや活動を子どもに提示することで、子どもが主体的に考え、学んでいくと考えられる。

(2) 研究のあゆみから

昨年度は、子どもの主体的な活動を生み出すために、振り返り活動に焦点を当てて研究を進めてきた。振り返りの視点を授業のはじめに示すことで、その時間で学ぶことが明確になり、子どもはその意識をもち、その時間の学習を進めることができた。また、教師側にとってもゴールを意識して授業を進めることができた。本時のねらいやつきたい力を教師側が明確にもち、どんな課題を出し、どのような視点をもたせて活動に取り組めばよいかを考えることで、子どもが主体的に考え、学び合える授業が展開された。また、「振り返りのあ・ま・つ」を子どもの机の横や教室の壁に掲示し、視点を参考にしながら、振り返りをしやすい環境づくりをすることで、スムーズに振り返り活動を行えるよう

になった。

振り返り活動について研修することで、改めて課題の提示や対話活動の大切さを実感した。課題意識をもつように仕組むことで、子どもが課題を主体的に引き受け、じっくり考える姿が見られた。また、思考ツールの工夫により、自分や友だちの立場や考えを明確にすることで、協働的な学習を生み出し、主体的・対話的で深い学びを実現させる授業が展開することができた。しかし、その振り返りの内容から子どもがどの程度、学習が身につけているか把握することは不十分であった。

そこで、今年度は「主体的に考え、学び合える授業の創造」というテーマをもと、つけたい力を明確化し、単元を見通した学びに焦点を当て、研究を進めていきたい。そこで、子どもが主体的に学習に取り組むために、単元を通してどのような力をつけたいのか、1時間ごとのつけたい力を明確にもつことが重要である。そして、そのための適切な学習活動や課題を考え、子どもに視覚的に示していく。さらに、学習活動や課題については、「やりたい・やってみたい」という気持ちをもてるように設定し、互いの意見を発表し合うことや、自分の考えを自分の言葉で説明したり発表したりする対話活動の場も必要である。そして、ひと通り考えを出し合った後、考えを比較し合ったり練り合ったりするような話し合いの質を高めていくことも不可欠である。

これまで同様、学習ツール（タブレット、ホワイトボード、付箋など）や思考ツールの有効的な活用や話し合い活動の工夫をしながら、協働的な学習を生み出し、子どもの主体的・対話的で深い学びを実現させていきたい。そして、互いの考えの良さに気づき、協働的な学習を支えるなかまづくりに力を入れて、ともに成長する子どもを育成していく。また、個での学びと協働による学びを効果的に組み立て、子どもが課題に対してじっくり取り組んだり、対話しながらより深めたりすることで、学び合える授業が展開されると考えられる。

4. 主題のとらえ方

「主体的に考える」…課題に気づいたり、課題を見つけたり、自分から解決を図ろうとする。

課題に対して根気強く取り組もうとする。挑戦する。

自分の考えを持ち、さらに広げたり修正したり深めたりしようとする。

「学び合う」…グループや全体などの話し合い活動の中で、それぞれ意見や学習成果、作品を出し合って、その意見のよさや共通点、違いなどを探し、さらによりよい意見や深い理解に到達する。

「単元を見通した」…単元全体でつけたい力、1時間ごとにつけたい力を明確にし、相互の関わりを意識した学習課題や学習活動のこと。また、必要に応じて既習・未習の学習内容や他教科と関連付けたりして、縦断的・横断的な視点で考える。

5. 研究仮説

単元全体や1時間ごとのつけたい力を明確にもち、単元を見通した学習活動を計画したうえで、学習活動や課題を視覚的に提示し、追求したくなる学習課題を設定すれば、子どもが主体的に考え、学び合うことができるだろう。

6. 研究内容

(1) 授業の工夫・改善

○学習に見通しを持たせるための単元を通した学習計画の提示

・単元で子どもにつけたい力を整理し、学習活動を視覚的に提示する

・カリキュラムマネジメントによる教育活動の工夫。

(教科横断的な視点で、学習活動を組み立てる。)

- 児童の思考の流れを意識した「めあて」「課題」「まとめ」「振り返り」の適切な位置づけ
 - 必ずしも毎時間必要なわけではないが、子どもの思考の流れや学習活動によって黒板に提示をしていく。
 - ・学習課題の提示に至るまでの展開や提示のしかた
 - ・追究したくなるような疑問形（問いかけの型）の課題の設定
 - 「なぜ～なのか」「どうすれば～できるか」「Aか、それともBか」「～はなんだろう」 など
 - ・解決する必要感が持てる課題の設定
 - ・子どもの実態、興味、関心、既習知識に応じた課題の設定
- 一人ひとりの子どもに考えを持たせる手立てや工夫→事前に子どもの考えの予想を持たせる
 - ・既習事項やキーワードの提示、生活体験の想起、思考ツール、ヒントカード
- 思考を整理し、対話活動を活性化させる工夫
 - ・学習課題の視覚化とつきたい力の明確化
 - ・板書の構造化
 - ・加筆修正を加える時間の確保（自分の考えの変化や協働の成果等が見える工夫）
 - ・学習ツールの活用
 - ICTの活用とホワイトボード、付箋、思考ツール（クラゲチャート、フィッシュボーン、イメージマップ他）など
 - アナログ教育を適切に取り入れる（ノートやワークシートなど）
- 「振り返り」による子どもの学びの意欲向上と理解度の把握
 - ・一時間の授業後、学習活動の区切り、単元の終わりなどに、対話活動に対する「振り返り」をする。「振り返りのあまつ」の活用
 - ・学習のプロセスや成果を振り返る。これまでの経験や学習と関連づける。次回の学びへつなげる。

(2) 学びに向かう環境や土台作り

◎生徒指導の3機能を生かした授業づくり

- ・自己存在感の感受 … 一人ひとりが大切にされる、がんばりや努力が認められる
- ・共感的な人間関係の育成…間違っても笑われない、相手の立場に立って考え、相手に思いを伝える
授業

- ・自己決定の場の提供 … 意見発表の場をつくる、対話や議論の機会を設ける

○学習用具や学習規律などのきまりの徹底 必要な学習用具をそろえる習慣づけ

○学習内容や重要事項、学習の成果の掲示

○調べ学習を促す環境づくり（タブレット、辞書、地図帳、図鑑などを身近に置き活用させる。）

○家庭と連携した生活リズムと家庭での学習習慣の確立

- ・水曜読書、「天津っ子家庭学習のてびき」、「いきいき生活カード」の活用

○朝の会、帰りの会、スマイルカードなどで、自分の成長、友だちの考えのよさやがんばりを見つける。

(3) 研究を支える日常の取り組み

○考えや気持ちを伝えあう場の設定

- ・朝の会、帰りの会、ふたば朝会、集会、学級活動、委員会活動、児童会活動、学校行事など

○基礎・基本の定着を図るふたばタイム

- ・毎週 月・火・木・金の朝の時間 8:20～8:30

朝読書、基礎基本の事項、前学年の復習、現在学習している内容の習熟など

7. 授業研究の進め方

(1) 校内研究会

- 1, 2学期に特定授業を1本ずつ行い、全職員で事後研をして仮説の検証をする。
- 特定授業者は、「指導観」「指導と評価の計画」「本時案」「板書計画」必要であれば、ワークシートを用意する。
- 特定授業を行わない者は互見授業を行い、仮説の検証をする。互見授業は、略案を用意する。

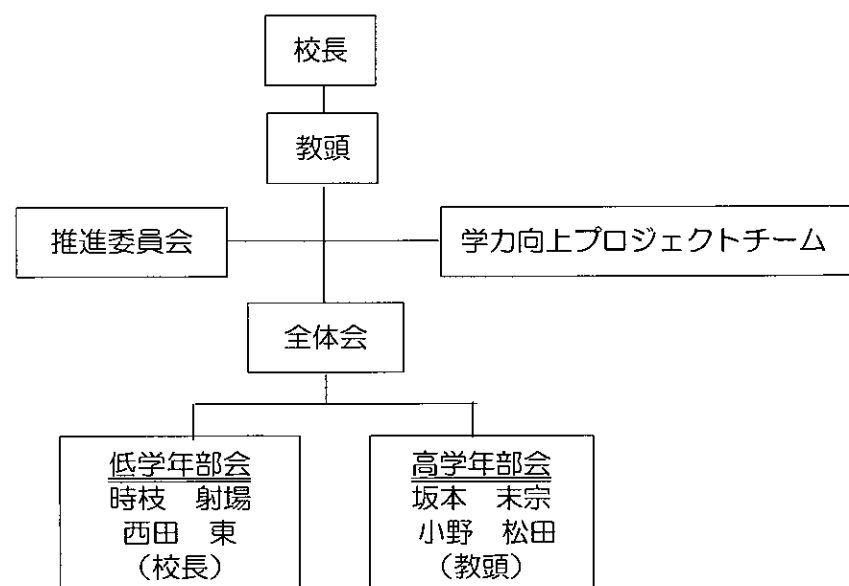
(2) 記録による検証、交流

- 授業チェック週間を設定し、授業チェックシートによる授業の見直しをする。(2ヶ月に1回)
- 授業チェック週間の翌週に板書画像や児童のノートなどを持ち寄り、数人単位で授業実践を交流する授業改善研修を行う。※データはロイロノートの「先生のみ共有フォルダ」に保存。
- 児童による授業評価アンケートを実施し、指導に生かす。

(3) 校内研修

- 講師を招聘して、人権学習についての研修を行う。
- OPTA 研修部が中心になって行う「同和問題研修会」の事前研修を行う。(年2回)
- 得意分野などの交流研修をする。
- 参加した授業研や研究大会、研修会の還流報告をする。
- その他、必要と思われる研修を適宜行う。

8. 研究組織



9. 研修計画

| | | |
|------|--|--|
| 1 学期 | <ul style="list-style-type: none"> • 年度当初共通理解事項についての確認 • 学級実態分析、支援の必要な児童の共通理解 • 研究主題及び研究仮説の決定 • 「対話学習」 • 前期校内研究会 指導案審議、事後研 • 校内研修「第67回同和問題研修会」事前研修 | <ul style="list-style-type: none"> • 授業チェック週間(5・7月) • 授業チェックシート、板書画像などによる授業改善研修 |
| 2 学期 | <ul style="list-style-type: none"> • 後期校内研究会 指導案審議、事後研 • 北部ブロック公開研究会 • 校内研修「第67回同和問題研修会」事前研修 • 先進研究校やブロック内外の研究会の参加と還流報告 | <ul style="list-style-type: none"> • 授業チェック週間(9・11月) • 授業チェックシート、板書画像などによる授業改善研修 • 互見授業による仮説の検証 |

| | | |
|------|---|---|
| 3 学期 | <ul style="list-style-type: none"> ・ブロック実践交流会への参加と還流報告 ・学力定着度調査の結果分析 ・研究の成果と課題のまとめ、次年度の研究の方向づけ | <ul style="list-style-type: none"> ・授業チェック週間（1 月） ・授業チェックシート、板書画像などによる授業改善研修 ・互見授業による仮説の検証 |
|------|---|---|

- ◆前期校内研究会（6 / ） 提案授業 提案者 年 教諭
- ◆後期校内研究会 提案授業 提案者 年 教諭

「授業チェックシート」による授業の見直しと授業改善研修の計画

校内研究の提案後と校内研究会前後にそれぞれ 1 週間授業チェック週間を設けて、授業の見直しをしていく。その後、改善研修を行う。

| 日 程 | 授業改善研修 |
|-----------------------------|------------|
| 5 / 20 (水) ~ 5 / 27 (水) | 5 / 27 (水) |
| 6 / (水) ~ 6 / (水) | 6 / 17 (水) |

授業チェックシート 教科（ ）

| | |
|--------------------|---|
| 1 | 学習に見通しを持たせるための学習活動を計画し、視覚的に提示することができた。 |
| 2 | 思考の流れを意識し、「めあて」「課題」「まとめ」「振り返り」を設定し、適切に板書に位置付けることができた。 |
| 3 | 習熟の程度に応じて、子どもに手立ての工夫ができていたか。 |
| 4 | 対話活動を活性化するために、その目的を伝え、ペア・グループワークや ICT、ホワイトボードや付箋などの学習ツール、思考ツールなどの工夫をして子どもが考えを比べて練り合う場がもてたか。 |
| 5 | 子どもに視点を与え、その時間の振り返りをさせ、学習内容の定着をつかむことができたか。 |
| つきたい力と児童の学習の定着について | |
| よかった点・反省点 | |

振り返りの視点

- ◆その時間につけたい力と一致した振り返りをさせる。(振り返りのあまつの活用)
- ◆児童の学びの状況についての反応(思考や内省)を読み取れるようにする。

ふり返りのあまつ

あ ああ!なるほど!(今日の学習をふり返る。)

- ~をして、~思った。
- 今日の学習で、~がわかった。
- ~さんの考えが、いいなと思った。
- はじめは、~と考えていたけど、~という考え方もあった。
- 今日の学習で~ができるようになった。

ま 前とくらべて...

(これまでの経験や学習と関連づける。)

- 前に学習した~と同じで(ちがって)~と思った。
- 前に学習した、~を使うとわかった。

つ 次にやってみよう!(次の学びへつなげる。)

- これから使ってみよう。もっと~について調べてみたい。
- ~は、これから~のときに使えそう。
- なぜ、~かなと思った。

など、自分の言葉で学習をふり返ってみよう!

ふりかえりのあまつ

あ ああ!なるほど!

- ~をして、~と思った。
- 今日の学習で、~がわかった。
- ~さんの考えが、いいなと思った。
- はじめは、~と考えていたけど、学習してみて~という考えもあるとわかった。
- 今日の学習で~ができるようになった。

ま 前とくらべて...

- 前に学習した~と同じで(ちがって)~だと思った。
- 前に学習した、~をつかうとわかった。

つ つぎにやってみよう!

- これから~をつかってみたい。なぜ、~かなと思った。
- もっと ~について知りたい。

など、自分の言葉で学習をふりかえってみよう!

| 振り返りの視点 | |
|---------------------|--|
| ① 学習のプロセスや成果を振り返る。 | <ul style="list-style-type: none"> 何をしたか、それをどう感じたか。 この学習で何が大切か、何がわかったのか。 (キーワードや今日学んだ用語を使うなどして) 自分の考えと友達の考えを比べて気づいたこと、自分の考えの変化。 (~さんの考えがいいなと思った。~さんの考えの方がいいなと思った。 自分は初め~と考えていたが、~という考え方もあったと知った。) どう考えて解いたのか、どう考えたら解けたのか。 この学習で何ができるようになったのか。 |
| ② これまでの経験や学習と関連づける。 | <ul style="list-style-type: none"> 身の回りの事象や日常生活とどんな関連があるか。 既習事項とどんな関連があるか。 既習事項を使って、考えることができたか。 |
| ③ 次回の学びへつなげる。 | <ul style="list-style-type: none"> 今後使ってみようこと、もっと調べたいことは何か。 もっと知りたいこと、やってみようことは何か。 これからの学習に使えそうなこと、どんな時に生かせそうか。 (〇〇はこれから~のときに使えそう。) 改善するためには、何が必要か。 次は何をすべきか。 この学習を通して生まれた新たな疑問や考えはないか。 (なぜ~なのかなと思った。 ~という考え方もあるかもしれない。) |

振り返りの内容について

振り返りは、学習内容について感想を書くのではない。

- ① 具体的なキーワードやその日に学んだ用語を使用する。
- ② 友だちの発表や板書を参考にしたりして振り返る。
- ③ 友だちの考えに対する感想や自分の考えの変化、新たな考えや疑問などを書いている。
 - ① →② →③に近づくようにしていく。